

豊かな表現力の育成
～伝え合う力を高める指導の研究～

I 研究テーマについて

伝え合う力を高める指導の研究について、ここ数年取り組んできている。昨年度の研究成果と課題を受けて、今年度も話すことと聞くことを相互に密接に関連させた指導の工夫を取り上げた。また、子ども達の考えを深め表現力をはぐくむための音声言語と文字言語が有機的に関わるような学習形態・指導法・教材の開発にも取り組んでいきたいと考え、このテーマを設定した。

II 研究の内容

1 「ことばの世界を広げよう～俳句はことばのカプセル～」

と題した“伝え合う力を高める指導法”についての学習会（ワークショップ）

講師 石田小学校 石田一元教頭先生

◎俳句のことばを基に想像し、自分の考えを広げ、ブレインストーミング形式の意見交流を中心とした話し合いの指導について以下のような活動を行った。

（1）繰り返して読むことで文語の調子に親しむ音読・暗唱の言語活動

（2）俳句に書かれていることばや知っていることばを手がかりとして、作者が描こうとしている風景や感情を自分なり想像する活動

（3）自分の読みをもとに友達と意見交流をする活動

・実際に意見交流をする中で、自分では想像できなかった色や音、風景がでてくると驚きや感動がある。自分にはなかった世界が広がり、交流を通して表現力を育ていく事が出来る指導方法を学ぶことができた。

2 授業研究

（1）俳句『雪とけて村いっばいのこどもかな』

加納岩小学校 4年生担任 松岡めぐみ教諭

【目指す言語能力】

読む力：俳句を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く力

①段階的指導…俳句に書かれていることばを基にして考えたことを、付箋に書くことにより自分の思いを伝えやすいようにした。

（「何が見えるだろう？」「どんな色かな？」）

②形態の工夫…どの児童も主体的に参加できるように少人数グループによる交流を行っ

た。付箋をワークシートに貼りながら自分の考えを伝え、ことばの世界を広げていけるようにした。自分の考えが肯定的に認められる雰囲気の中で自分の考えを表現しやすいようにした。

(2)『わらぐつの中の神様』 日下部小学校 5年生担任 岡村太郎教諭

【単元の目標】

- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分なりの考えをもつとともに、それを発表し合い広げたり深めたりすることができる。
- 比喩や反復などの表現方法の工夫に気づくことができる。

①朗読劇による交流

印象に残ったせりふについて3人1組で朗読劇を行い、登場人物の人柄や心情について意見を交流することで自分の考えを広げたり深めたりする学習活動である。

お互いに認め合いながら活動を進めている様子が見られた。人柄や心情が伝わる朗読にするために、実際に動作や仕草をしてみるように助言したことは有効であった。助言に従いちよつとしたジェスチャーをして思いを伝えようとする姿が見られ、それをきっかけに交流が深まっていった。

3 実践交流

- ・石田教頭先生のワークショップを受けて研究同人が「伝え合う（聞く・話す）」についての一実践を持ち寄り、授業の様子を交流した。
- ・各自が授業を持ち寄り、質疑応答の時間を取ることで互いの問題意識を共有することができた。

Ⅲ 成果と課題

- ワークショップ形式の学習会で学んだことが、授業研究や日常の授業で生かすことができた。
- 音声言語においても段階的指導の重要性や音声言語と文字言語との有機的な関連について学ぶことができた。
- 学習会で学んだことを授業研究・実践発表等に生かす理論＝授業という流れができ、実りある研究になった。
- 子どもたちの実態に合わせて、教材の世界を理解させるための補助資料（写真やVTRなど）の映像資料も必要だろうという意見が出された。
- 来年度にむけては、子ども達の伝え合う力をはぐくむために、めざす方向性をより具体的に示し音声言語と文字言語が有機的に関わるような学習形態・指導方法・教材開発の研究を継続していきたいという意見が出された。

(部長 武井 美奈子)